

第4回災害対策本部会議議事録

日時：平成23年3月12日（土）17：40～18：20

- 東京電力：電力の復旧について、県南の送電設備を頼りに限界までやっている。県北は復旧の手が期待できない。栃木の新茂木の送電所を明日午前には復旧させ、那珂変電所に繋いで復旧する方法を検討している。ヘリによる上空からの調査では可能であると考えている。状況が明らかになればまた報告する。
- 原子力対策班：テレビ報道のとおり、福島1号機で爆発が起こり、骨組だけが残った模様。ただいま原子力保安院に確認しているところ。福島県から原子力保安院を通して安定ヨウ素の確保の要請があった。保健福祉部と協議して調整したい。なお、避難エリアから県境までの距離は約80kmである。1015マイクロシーベルトという値は、JCO事故に匹敵する大事故である。
- 自衛隊施設学校：知事から支援要請を受けて、県内の被害状況の偵察を行っている。また、食料及び飲料水の確保など、引き続き輸送物資の支援を行う。
- 総務部長：県庁の水が40トンしか残っていない。12時間程度はもつと考えられる。企業局からも2トン融通してもらうことにしている。水を節約するため、洗面所の水道を制限していく。競輪場は3月中は中止。被災者に対して県税の減免を検討。県議会については、まだ4委員会で採決が終了していないため、今日、明日の状況を見て検討する。予特の日程も変更になる可能性もある。
- 生活環境部長：文化センターについては天井崩落など被害がひどい。13日の9時から営繕課に点検してもらう。エコフロンティアかさまについては、しばらくゴミの受け入れは難しいので、業者に点検・修理していただく。消防学校についても施設に損傷が見られるが、4月から学生の入校が始まるので、業者に確認したい。
- 保健福祉部長：DMAT6チーム（名古屋・愛知）が北茨城市に出動し、活動中。取手協同病院の倒壊のおそれは遠のいた。前回報告した透析患者の人数は35名であった。おむつ・粉ミルクはカインズに、灯油はガソリンスタンドに、食料は10万食程度イオンに手配中。
- 農林水産部長：大津漁港で被害が出ている。桜川市の林道で法面崩壊が発生している。
- 土木部長：一次調査が完了した。堤防の亀裂が約100箇所発生している。
- 企業局長：県庁の水に関しては2トンタンクで対応可。
- 病院事業管理者：中央病院について営繕課で応急危険度判定を行った。病床では亀裂、崩落の箇所が多数あり使用不可。事務は可能。収容可能人員は130人に減るため、随時退院を進める。放射線検査センターについては除染可能であるが、入院不可。
- 教育長：人的被害14名。施設被害985件であり、約半数。月曜の休校を対応する。
- 企画部長：茨城空港ビルについて、百里事務所の最終確認がとれない。13日は使えない

い。

- 商工労働部長：産業技術専門学院に大きな被害はない。月曜以降の対応は検討中。
- 警察本部長：死者数は16名で把握している。大洗では85歳女性死亡とのこと。信号は電力の回復とともに復旧が進んでいる。7警察署管内では完全復活しているが、県北地域は復旧の目途が立っていない。常磐道は緊急通路として通行可。免許センターについては、電気系統が壊れており、免許の新規登録及び更新が不可能。回復できるか確認できていない。
- 知事：自衛隊の現地調査で新しい発見はあったか。
- 自衛隊施設学校長：食料不足が深刻である。自衛隊にも住民が殺到しているようだ。